

# 群馬大学基金

事業報告書

2020  
年度



国立大学法人 **群馬大学**  
National University Corporation Gunma University

# 群馬大学基金へのご支援に対するお礼

皆様には、日頃より群馬大学基金へ温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、多くの皆様からご支援いただきました群馬大学基金を活用し、2020年度も様々な事業を実施することができました。誠にありがとうございます。

特に、2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大という世界的に未曾有の事態となり、本学でも保護者の家計の急変や学生本人のアルバイトの減少などにより、経済的に大きな被害を受けた学生が多くおりました。それらの学生を救済するため、皆様に、群馬大学基金へのご支援をお願いさせていただきました。

本趣旨に、多くの皆様からご賛同いただき、学生、大学への励ましのメッセージと共に、非常に多くのご寄附を賜りました。お陰様で、群馬大学基金を活用した新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援として、緊急学生支援奨学金給付、学生のオンライン授業受講環境整備支援、新入生に対するオンラインサポート、国費外国人留学生受入支援を行うことができました。皆様からのご支援に重ねてお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大は、現在もなお予断を許さない状況にあります。今後も学生が修学を諦めることのないよう、学生生活等の支援を継続してまいります。

今後も本学を取り巻く環境の変化に対応しつつ、学生に対する支援、教育研究の質の向上、社会貢献活動の充実等、群馬大学の発展に努力して参る所存です。引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人群馬大学長

石崎 泰樹



# 群馬大学基金の事業概要

群馬大学は、北関東を代表する総合大学として、豊かな教養と高度な専門性をもった人材を育成し、先端的かつ世界水準の学術研究を推進します。そして地域社会から世界まで開かれた大学として貢献していきます。

群馬大学では、学生に対する支援、教育研究の質の向上、社会貢献活動の充実等を図ることを目的とし、「群馬大学基金」へのご寄付をお願いしています。

皆様からご支援いただいた寄附金は、「学生の修学支援に資する事業」「大学運営全般に係る事業」「重粒子線治療の普及・発展に資する事業」及び「学生等への研究等支援に資する事業」の4つの事業で活用させていただきます。

## 事業

### 1. 学生の修学支援に資する事業

経済的理由により修学が困難な学生に対して、次の事業を行います。

- 奨学金の給付
- 海外留学に係る費用の一部補助 等



### 2. 大学運営全般に係る事業

グローバル化に対応した教育研究を推進するとともに、地域の発展に貢献するため、次の事業を行います。

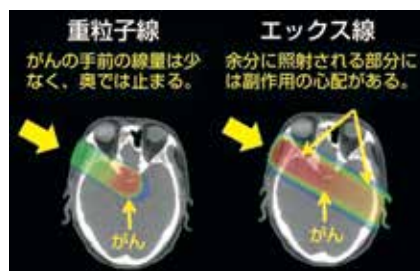
- 教育研究の支援
- 国際交流の推進
- 社会貢献活動の充実
- 教育研究環境の整備充実
- 附属学校の環境整備 等



### 3. 重粒子線治療の普及・発展に資する事業

我が国で初めての大学附属病院に併設された重粒子線照射施設として、体に優しい先端のがん治療を推進するために次の事業を行います。

- 治療技術開発
- 専門家の育成
- 地域連携
- 普及活動
- 設備のメンテナンス
- 患者アメニティの充実 等



### 4. 学生等への研究等支援に資する事業

学生（大学院生・学部生）やポスドク等の“若手研究者”への研究等支援として、次の事業を行います。

- 公募型プロジェクトにおける研究活動に要する費用支援
- 研究成果を発表するための論文刊行費用、学会等参加旅費等の支援
- 研究者としての能力及び資質向上を目的とした異分野の研究者又は実務経験者との交流促進支援 等





# 新規事業のご案内

## 若手研究者(学生又はポスドク)を支援するご寄附の受け入れを開始

本学では、若手研究者(学生又はポスドク)を支援するため、「学生等への研究支援に資する事業」を2020年度に創設しました。皆様からのご支援は、次のような活動等に充てさせていただきます。

- 学生又はポスドクが公募により選定されて参加する研究活動
- 学生又はポスドクが自らの研究成果を発表するための学会誌投稿、ホームページ作成、研究成果広報用パンフレット作成等
- 市民を対象とした研究成果広報活動などのアウトリーチ活動
- 研究者としての能力・資質の向上を図ることを目的とした、学生又はポスドクの国内外の研究室への派遣

○分野の異なる様々な研究者等が集まる交流会開催  
なお、個人からの「学生等への研究等支援に資する事業」へのご寄附に係る税制上の優遇措置については、「所得控除」のほか、「税額控除」も適用となり、確定申告の際に、寄附者様において、いずれか一方の制度をご選択いただけます。

未来を担う若手研究者の育成に温かいご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



## 現物資産(不動産、有価証券等)によるご寄附の受け入れを開始

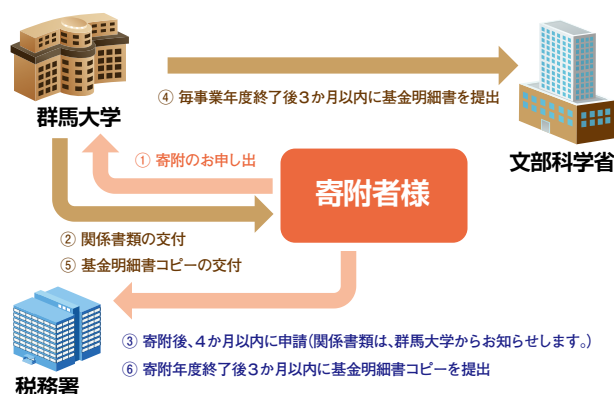
本学では、「土地、建物等の不動産」や「株式等の有価証券」などの現物資産による寄附を受け入れ、当該資産を有効に活用するため、「群馬大学現物資産活用基金」を2020年度に創設しました。群馬大学基金は、主に現金による寄附により運営しておりますが、それに加え、このたびの現物資産によるご寄附を有効に活用することで、教育研究環境の一層の充実を図ってまいります。

なお、群馬大学現物資産活用基金への現物資産によるご寄附におきましては、2018年の税制改正により、みなし譲渡所得税は非課税扱いとなります。

現物資産によるご寄附をご検討の方は、お気軽に基金事務室までお問い合わせください。

※みなし譲渡所得税とは：個人が株式・土地等の現物資産を法人に寄附した場合、寄附時の時価で譲渡があったとみなされ、資産の取得時から寄附時までの値上がり益に対してかかる所得税のことです。

【みなし譲渡所得税の非課税承認(承認特例)の流れ図】



# 群馬大学基金の2020年度の活動を事業ごとにご報告します。

## 新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援事業

今般の新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活全般に非常に大きな影響を与え、様々な対応が求められました。本学でも、学生の健康と学習機会を確保するため、対面式の授業をオンラインによる授業に切り替えるなど、様々な措置を講じました。

ここでは、皆様からご支援いただいた群馬大学基金を活用して実施しました、新型コロナウイルス感染症に伴う学生生活や学習環境などの支援をご報告します。

### 緊急学生支援奨学金給付（学生の修学支援に資する事業）

5万円を943人に給付（総額4,715万円 ※うち2,740万円は群馬大学基金以外からの支出）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会情勢等の変化により、アルバイトがなくなった、あるいは大幅に減収した、仕送り等の保護者等からの経済的援助が減少したなどにより経済的に困窮状態となった学生に対する緊急支援として、返済を要しない奨学金を給付しました。

### ▼緊急学生支援奨学金給付を受けた学生の声

#### 理工学部 3年生

私は、2020年2月中旬から春季休業のため実家に帰省をしていました。そして、例年なら4月からの新学期に向けて群馬県にあるアパートに戻る予定でしたが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、戻るタイミングを失い、結果的に5月末まで実家でオンライン授業を受けました。この期間における生活の変化はとても大きいものでした。

まず、群馬県内のアパートに両親と共に車で教科書等を取りに行き、実家にオンライン講義を受けるための通信環境を整えました。これらは、例年なら無い出費でした。また、私は両親からの仕送りと大学内でのアルバイトで生計を立てていましたが、仕送りは一時的になくなり、アルバイトは出来なくなりました。さらに、アパートの家賃や光熱費を払いながら、実家での生活費が私の分だけ余計に増えた形になりました。私の家は、決して金銭的に余裕があるわけでは無いのにも関わらず、日本学生支援機構の奨学金には申し込めない家庭だったため、正直これら予想外の出費は辛いものでした。「全ては感染症のせい」、「我が家は奨学金を貰えないから出費は仕方ない」と無理矢理納得しようとしてしまいましたが、両親に私と私立大学に通う妹の学費や一人暮らしの費用を払い続けて貰うことに、どことなく不安を覚えました。そんな時、緊急学生支援奨学金を給付して頂けるということで、少しでも両親への負担を減らせると思い、申し込みを決意しました。

実際に緊急学生支援奨学金が給付された時にはとても安心したのを覚えています。頂いた奨学金は、住んでいなかった2ヶ月分のアパートの家賃や、オンライン授業を受ける環境を整える際の補助に使いました。現在も、新型コロナウイルス感染症の影響に予断を許さない状況ですが、もし緊急学生支援奨学金が給付されなかったら、と考えるのが怖いぐらいとても助かりました。その節は有難うございました。

#### 社会情報学部 4年生

私は、大学内で行うアルバイトと仕送りで生計を立てていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、大学内で行っていたアルバイトを行うことができなくなり、アルバイト収入が無くなりました。実家も影響を受け、仕送りが従来通りではなくなりました。貯金だけで4月から生活をしていましたが、それも6月で底をつきそうになってしまいました。それを受けて私は、学費・生活費(家賃、光熱費等)のために緊急学生支援奨学金給付を希望することにしました。

しかし、私事ですが2020年8月に緊急入院が決まってしまいました。新型コロナウイルス感染症が原因ではなかったものの、突如入院を余儀なくされ、ただでさえ収入がなかった上に治療費と入院費が必要な状況に追い込まれました。

入院生活が終わった後も、継続した通院が必要になり大学生活に必要なお金の他に通院費も必要になりました。そこで、緊急学生支援奨学金給付を受けることができていた私は、この給付金を治療費と入院費の補助に充てる事ができました。本来予定していた使用目的とは違い、緊急に必要な使用目的でしたが、収入が途絶えていた私にとって大きな支援となりました。結果として、無事入院生活を終える事ができ、治療費等も問題なく支払う事ができました。その後、大学生活も通常通り送る事ができ、通院も問題なく行えています。緊急学生支援奨学金給付を受ける事ができていなかったら、どうなっていたのだろうと考える事があります。想定外な使用用途にはなりましたが、本当に助かりました。

新型コロナウイルス感染症の流行は未だに広がり続け厳しい状況は続いています。前記した通り支援を受けたことで、従来通り不自由なく大学生活を送る事ができています。

## 学生のオンライン授業受講環境整備支援（大学運営全般に係る事業）

1万5千円を766人に給付（総額約1,149万円）

パソコンの購入やインターネット環境の整備など、オンライン授業を受講するための環境を新しく整備した学生に対し、経済的な支援を行いました。

### ▼学生のオンライン授業受講環境整備支援を受けた学生の声

#### 医学部医学科 5年生

私は医学科5年次にオンライン授業環境整備に係る経済的支援を受けさせていただきました。医学科5年生の授業は主に附属病院での臨床実習ですが、新型コロナウイルスの影響で実習の中止、その後一時的にオンラインへの全面的な移行となりました。自宅でオンライン講義を受けることになったのですが、いくつか問題がありました。

まず、私のパソコンはノートパソコンであり手軽に持ち運べる代わりに画面が小さく、オンライン講義で映される資料が全く見えないということがありました。1日の大半を画面の前で小さい文字を凝視して過ごすためひどい頭痛や肩こりに悩まされていたのを覚えています。インターネットの環境についてもたびたび問題があり、講義を担当して下さった先生の声が飛んで講義についていけなくなってしまうことや、回線が不安定な時はオンラインの教室に入ることすらできないことなどがありました。

また、プレゼンテーションなどを行う際の画面共有に伴い聞く人の反応が見られないこともあり、オンラインの難しさに直面しました。私は今回の支援が行われるということが後押しになり、健康被害の解決や最低限の学習機会を維持するために環境整備を行うことに決めました。具体的にはモニターとLANケーブルを購入しました。モニターはパソコンを購入するよりも安価であり、小さい画面を凝視する必要がなくなるだけでなく自身のパソコンと組み合わせることで聞く人の顔を見ながらプレゼンテーションを行えるようになりました。そして、LANケーブルを使用することで回線が安定し、以前と比較して講義が落ちることや音声の飛びを抑えることができました。

オンライン授業という新たな講義体系になり、大学のみならず学生も手探りの状態でしたので今回の支援を受けることで学習機会を失わずに済んだと感じています。このような学生に対する支援に関わってくださった皆様に心から感謝を申し上げます。

#### 理工学部 3年生

今年度、初の「オンライン授業」が始まるにあたり、私は3つの問題を抱えていました。

1つは、PCが古いため動作が重く、度々突然電源が落ちるようになっていたことです。そのため負荷が大きいZoomを用いた授業に不安を覚えました。さらに小型で画面も小さかったため、画面共有により授業が進められた際に、字が見えづらく感じました。

次に、自宅アパートのインターネット環境が元々良くなかったことです。オンライン授業が開講されると、学生が多いアパートでは同じ時間に講義を受講する人もいるため、よりインターネットに繋がりにくくなりました。また、無事にアクセスできても途中で回線が不安定となり、先生の声が途切れて聞こえ、静止またはZoomが落ちることも度々あったため、集中して講義を聴くことができませんでした。そこで、これらを改善するために資金調達を試みましたが、長年お世話になっていたアルバイト先が新型コロナウイルスによる経営難となり、学生アルバイトは一斉解雇されました。

以上の状況に置かれた私は、親族にも相談し援助を願う中、切り詰めた生活を強いられていました。

そんな中「群馬大学学生のオンライン授業受講環境整備に係る経済的支援」が始まり、早速応募しました。遠方に住む両親に書いてもらう書類もなかったため、気軽に申し込むことができました。

私はこの支援金を、先に記した問題を解決する一部に充てました。まずPCについて、今後のオンライン授業が快適に聴講でき、さらに研究活動においても必要なパフォーマンスを有した大きめのもの買い換えました。加えて、アパートのインターネットについて、会社やプランの検討を行い、回線を切り替えました。

支援を受けられたお陰で、資金調達のために学業を疎かにすることもなく、安心してオンライン授業に臨むことができました。

困っている学生のためにこのような支援が行われたこと、その恩恵にあずかれたことに感謝申し上げます。

## 新入生に対するオンラインサポート（大学運営全般に係る事業）

オンライン相談会に新入生108人が参加、サポーター21人に謝金を総額21万6千円支給

大学に登校し対面での授業が受けられず、学生間の繋がりが築けない環境の中で、これからの大学生活に不安を抱えている新入生に対し、2年生以上の学部学生に新入生のサポーターとなってもらい、Zoomによるオンラインサポートを実施しました。5日間実施し、108名の新入生が参加しました。また、2年生以上のサポーターへは、アルバイトによる収入が減収している状況を鑑み、大学業務への協力として、謝金を支給しました。



## ▼新入生に対するオンラインサポート サポーターの声

### 医学部保健学科 4年生

私は、新入生オンラインサポートで、上級生サポーターとして参加させていただきました。

最初はZoomを使って複数人で会話することに慣れていなかったり、マイクやビデオの関係で会話が続かないこともあったり、オンラインでの難しさを感じました。Zoomの扱い方が分かってくると、新入生を交えながら、みんなで話せるようになりました。話せるようになってくると、上級生も新入生もそれぞれ新型コロナウイルス感染症の状況に困っていることがあることが分かりました。ただし、具体的に困っていることはなく、漠然とした今後の不安のようなものが多かったです。みんなそれぞれがこの新型コロナウイルス感染症の状況に将来の漠然とした不安をかかえていて、このオンラインサポートでは、それを共有することができました。不安の根本的解決には至らなかったものの、充実した時間となりました。

私は一人暮らしで、家に1人で引きこもる生活が続いて、不安な気持ちを口に出したり今まで普通にしていた友達との雑談もできなかつたりという状況だったので、誰かと話ができるという機会を設けていただいたことがとても嬉しかったです。困っているのが自分だけじゃないと思えたことも安心感に繋がりました。新入生にとっても少し安心できた、大学生活をもう少し頑張ろうという気持ちになってもらえていたら嬉しいです。

また、普段の生活でも他の専攻の後輩とは話す機会がなかなかないので、今回のオンラインサポートの期間で、他専攻の後輩と話せたことで、他専攻について知ることができ、他専攻の理解が深まったように感じます。同じキャンパスで勉強をしてもなかなか知る機会が少ないので、他専攻を理解するいい機会となりました。

これからも、オンライン対面問わず、私たち学生が大学内の人脈を広げられる機会を設けていただければと思います。

### 国費外国人留学生受入支援（大学運営全般に係る事業）

#### 国費外国人留学生の入国待機期間中の滞在諸費用補助として、5人に総額12万6千円を支給

国費外国人留学生を含む全ての入国者は、新型コロナウイルス感染症の水際対策として、入国の際、14日間を宿泊施設等で待機する必要があります。国費外国人留学生の入国待機中の滞在諸費用を補助しました。  
※国費外国人留学生：外国人が日本政府からの奨学金を得て日本に留学するものです。

### 寄附者様からの応援メッセージ

ご支援をいただいた皆様から、たくさんの温かい応援メッセージもいただき、学生、教職員、大変励みになりました。誠にありがとうございました。一部ではありますが、寄附者様からの応援メッセージを紹介させていただきます。なお、その他のメッセージも群馬大学基金ホームページでご紹介させて頂いています。



群馬大学基金  
ホームページ

#### 応援メッセージ

- 新型コロナの影響で厳しい時期が続きますが、日本の未来のために歯をくいしばってがんばりましょう。応援しています。
- コロナ禍で大変な学生に少しでも役に立てるなら幸いです。この苦難を乗り越え、一人でも多くの学生が社会の希望になることを祈っております。
- 母校である群馬大学で学んでいる学生の皆さんへ。学びを将来の自分自身のために続けて下さい。微力ながら応援します。
- コロナ禍にめげず、群馬大学で学ぶ研究テーマの深耕と共に同僚とのきずなを大切に、学園生活を楽しんで下さい。
- 群馬大学卒業生です。自分も困窮な学生時代に、大変お世話になりました。コロナ禍による困窮学生支援に協力したい。母校の更なる発展を祈っています。
- 教育学部卒業生です。私も奨学金を受けながら学業を続けることができました。学生の皆様の支援になれば幸いです。現在も教師をしておりますが、良い先生の誕生を現場で楽しみに待っています。
- 今回のコロナのパンデミック環境下で、学生さんは大変な生活と思いますが、これを貴重な経験と捉え、コロナに負けずに勉学を続けて頂きたいと思います。
- 今般の社会状況の中、医師を目指す強い意志を持ちながら困窮している学生さんのお役に立てればと思います。
- 私が卒業してから58年も過ぎましたが、此の度の新型コロナウイルスの様な生活や経済を深く脅かす事例は経験した事がありません。そして若い人達の修学にも強く悪影響を与え、私達同窓もこの事到大変に心配しています。次代を担う若い人達の為に寄附させていただきます。

# 学生の修学支援に資する事業

## 経済的困窮学生に対するサポート

### ▶奨学金として20万円を大学院生12人に給付（総額240万円）

経済的困窮度が極めて高く、意欲と能力のある大学院生12人に、返済を要しない奨学金として、一人20万円を給付しました。ご寄附をいただいた皆様へ感謝し、地域に貢献できる学生を育ててまいります。

## 学生の海外派遣をサポート

群馬大学では、グローバル社会において活躍できる人材を育成する目的で、留学意欲のある学生に対し、群馬大学基金等を活用した海外派遣のための奨学金制度を実施しています。

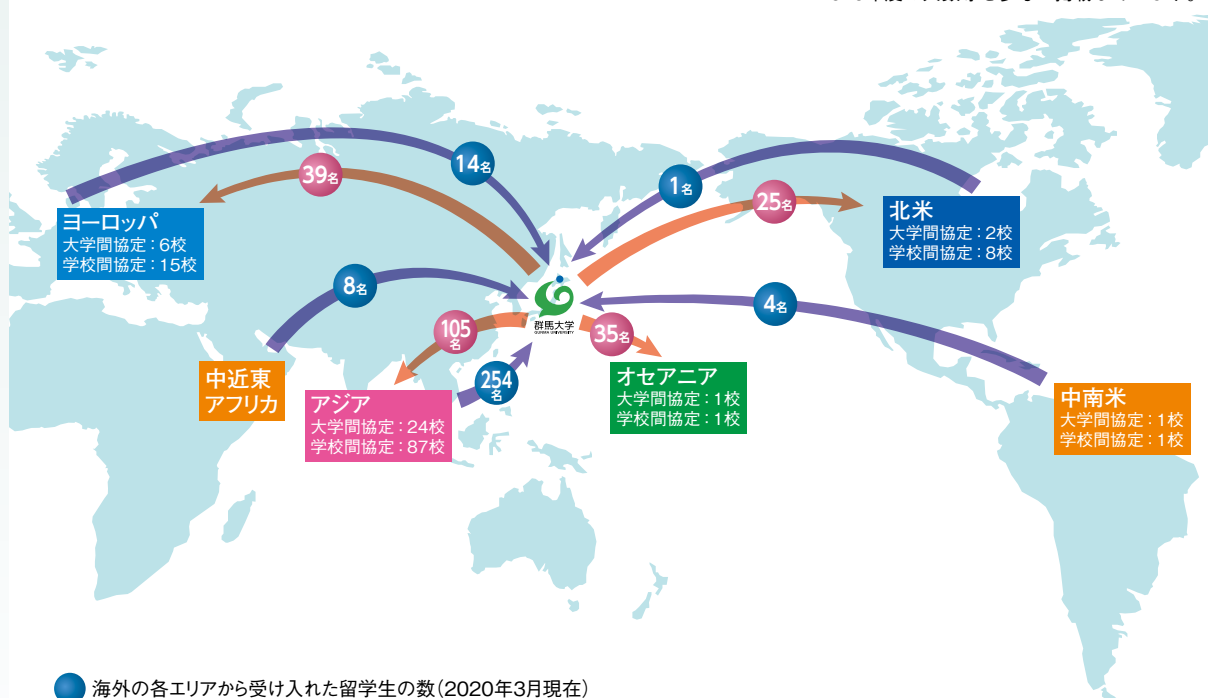
本学は、29カ国1地域127大学等（2021年1月現在）と協定を結び、交換留学生として半年又は1年、学生を派遣しています。また、夏休みや春休みを利用して、本学および協定校が企画する1～4週間程度の短期研修や語学研修に、多くの学生が参加しています。

2019年度は延べ204人の学生に海外留学を経験しましたが、そのうち32人が、群馬大学基金からの支援を受けて、海外留学をしました。群馬大学基金を通じた寄附者の皆様の経済的支援が、多くの学生にとって留学への後押しとなっています。

2020年度予定していた交換留学や短期研修といった海外派遣への、群馬大学基金からの支援は、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行のため、実施できませんでしたが、学生の海外派遣支援は、今後も継続していきます。

## 2019年度 海外留学状況 29カ国1地域127大学等と提携

※2019年度の人数等を参考に掲載しています。



● 海外の各エリアから受け入れた留学生の数 (2020年3月現在)

● 海外の各エリアの協定校に留学・研修した群大生の数 (人数は2019年4月～2020年3月の延べ人数)



# 大学運営全般に係る事業

## 学生のグローバルなチャレンジをサポート

● 群馬大学の国際展開を担う国際交流リーダーを育成する目的で、2019年度から群馬大学基金を活用し、『「駆ける、世界を！」グローバルチャレンジプログラム』を実施しています。

グローバルチャレンジプログラムは、本学の学生個人あるいはグループが自分たちで企画したユニークかつ個性ある海外での活動に群馬大学基金から最大50万円を支給する海外奨学金プログラムです。

第2回目となった2020年度は、独自性のある、キラリと光る海外での活動を自由に企画した群馬大学生9組がグローバルチャレンジプログラムに応募し、第1次審査の書類審査を通過した6組が第2次審査にのぞみました。第2次審査は、各組がプレゼンテーションを実施し、3組の企画が選ばれました。

グローバルチャレンジは、意欲を持つ学生は誰でも自分の希望をかなえられる、挑戦できる留学プログラムです。これからも群馬大学の学生、教職員でグローバルチャレンジをつくっていきます。

## 2020年度に採択された企画のご紹介

2020年度にグローバルチャレンジプログラムに採択された3組の企画ですが、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行のため、2021年度に実施が延期となりました。

ここでは、グローバルチャレンジプログラムに採択された3組に、次の4点をインタビューしましたので、ご紹介します。

- ①留学先
- ②留学の活動内容（どのような留学活動をするか？どうしてその活動をしたいと思ったか？）
- ③今後の意気込み（留学の活動を通して、どのように自身の勉強や進路、群馬大学の国際化へつなげていこうと考えているか？）
- ④グローバルチャレンジプログラムの魅力とは

## 世界一の教育を学ぶ～子どもたちにとってより良い教育とは～

共同教育学部 永村麻結、荻原陽葉、伊東美吹

### ①フィンランド

②私たちの留学の活動内容は、大きく分けて3つ挙げられます。1つ目は、小学校、中学校、高等学校、専門学校を実際に訪問して学校現場でのフィールドワークを行うことです。2つ目は、異国の文化に触れ、日本の文化を発信し交流をすることです。3つ目は、幸福度世界一の理由を知ることです。3つの中でも1つ目の現地の学校でのフィールドワークに重点を置いて活動をしようと考えています。私たち3人は教育学部生であるため、教育水準の高いフィンランドの教育から学び、教師になってから学びを生かしていこうと考えているからです。また、学校でのフィールドワークに関しては、自分達だけでは学校の手配等が難しいと考えたため、Global Teacher Program in Finland というプログラムを利用して活動します。このプログラムには、私たち以外の学生も参加するため、より良い刺激を私たちに与えてくれるだろうと考えています。2つ目、3つ目の活動も現地の方と交流しながら学んでいこうと思います。

③私達はこの留学を通して、フィンランドの教育現場を見て得た経験や知識を他の教育学部の学生に伝えようと思います。日本の教育制度に囚われず、世界の教育制度を実際に見ることで柔軟な考えを取り入れて、更なる教育水準の向上を目指そうと考えています。フィンランドの教育の良いところを自分たちが教育現場に出た際に活かせるように、日本の教育課題への対応を考察し、ここで得た経験を卒業研究に活用するなどしていきたいと思っています。

④グローバルチャレンジの魅力は主に2つあると考えます。まず、大学全体で募集されるため全学部生が応募でき、留学できるチャンスが学生全員に与えられていることです。これは留学したいと思う学生にとって素晴らしい機会になっていると思います。次に、自分たちで留学計画を立てることができることです。行きたい場所やそこでやりたいことを自分たちなりに考えて、実現することができるのは留学を最大限に生かすことに繋がると 생각합니다。



## 「SDGs x 女性 もっと女性にリーダーを！ ニューヨーク市の取り組みから私達が学べることは？」

社会情報学部 山尾友映、共同教育学部 荻原 遥

### ①アメリカ合衆国

②私たちは「SDGs x 女性 もっと女性にリーダーを！ ニューヨーク市の取り組みから私達が学べることは？」をテーマに、女性のエンパワメントに焦点を当てた留学プログラムを考えました。女性の起業家が多く、女性の成長を促す都市のランキング No.1 であるNYを留学先に決定しました。国連・NY州立ガバメント・NYタイムズの訪問から、世界や地域の女性の地位向上の取り組みを学びます。さらに学職場の女性職員の割合を調査し、それをデータベース化することによって、日本がどれほど女性進出の遅れている国なのかを目に見える形で表します。また、女性の社会でのあり方やジェンダー平等についてのディスカッションを、NY大学生と留学前・留学現地・留学後の三度にわたり行うことで、議論の質を高めていきます。

③上記のような活動を通して、群大生に女性のエンパワメントや留学に関心を持ってもらい、群馬大学に貢献していきたいと考えています。そして、今までは「将来、女性が生きやすい社会づくりに貢献したい」という漠然とした目標しか定まっていなかったのですが、この留学でこの漠然とした目標をもっと明確なものにし、それを達成するために、今の私たちは具体的に何から取り組んでいけばよいのかを見つけていきたいです。

④私たちが思うグローバルチャレンジプログラムの魅力とは、一から自分たちで留学プログラムを作成することができる点だと思います。SDGs や女性のエンパワメントに焦点を当てるといった留学プログラムは、既存のものにはありませんでした。しかし、このプログラムを通して、先生のお力添えもあり、自分たちが本当に興味のあることに特化した内容を留学プログラムとして確立させることができました。群大生それぞれが興味・関心を持っている分野を、既存の留学プログラムで全てカバーすることは難しいと思います。このプログラムは、群大生の本当にやりたいことを全力でやらせてくれるものであり、大学生である今しか経験できないことにチャレンジさせてくれるものだと感じます。



## 「デンマークの住人となって幸せと健康の秘訣を探す ～3つのSDGsでwell beingの源に触れる～」

医学部医学科 高野彩佳

### ①デンマーク

②「デンマークの住人となって幸せと健康の秘訣を探す～3つのSDGsでwell beingの源に触れる～」というテーマでデンマークへの3ヶ月の留学を予定しています。（新型コロナウイルスの影響により現在は延期しています。）全寮制の成人教育機関（Brandbjerg Højskole）で学びながら、保育園、小学校、性教育の学習館、地域の福祉課などを訪問し、インターンシップやインタビュー等のフィールドワークを計画しています。これらの活動を通して、デンマークの「幸せ」を根元から支える要素を具体的に探求することで、日本や世界での「幸せ」の達成方法について研究します。

③新型コロナウイルスの影響で計画通りの留学は叶いませんでしたが、1年間休学し、法人向け健康管理システムを開発する企業でのインターンや宗教施設での生活を体験し、幸福感や生きがいについての知識や思考を深めることができました。現在は産業医を目指しています。働く人と組織の健康・幸せを応援できるよう、今後も研鑽を続けていく所存です。また、この1年間はオンラインツールを活かして他大学の学生の留学相談やイベント登壇、メディアの取材を受けることもありました。これまでの経験や知識を活かして、今後も医学生や留学を志す学生たちの力になればと考えています。

④本プログラムの最大の魅力は、「自分の実現したい留学を自由に設計できる」ことであると考えています。私の留学計画では、大学や企業が企画したプログラムやインターンシップ制度は使用しないため、自分が行いたい活動を自由に組み合わせて計画をデザインできますし、同時に、課題遂行能力や臨機応変に対応する力も養われると感じています。また、こうしたユニークな計画を通して、群馬大学内外の学生に多様な留学の一例を紹介していくことも重要なミッションの一つだと考えています。





# 重粒子線治療の普及・発展に資する事業

重粒子線治療の普及・発展に資する事業は、2020年度の実施はありませんでしたが、重粒子線治療のこれまでと今後の発展について、ご報告します。

## 重粒子線治療のこれまでと今後の発展に向けて

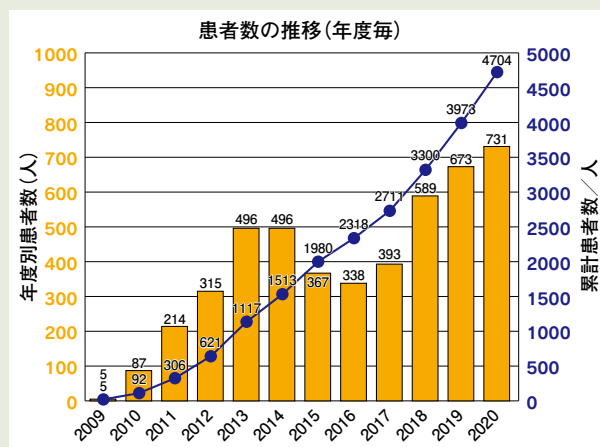
重粒子線医学研究センター 准教授 田代 睦

本学では2010年3月に重粒子線治療が開始されました。患者数の推移を図に示します。患者数は一時期減少したものの年々順調に推移し、2020年度ではコロナ渦にも関わらず年間731名の患者さん、この11年間で累計4,704名の患者さんに対して治療を遂行してきました。重粒子線治療を安全に行うことは、本学および当センターの重要な役割です。

重粒子線治療を安全・確実にやっていくためには、施設や装置のメンテナンスが欠かせません。本学の装置は、当時小型普及型として開発された実証1号機でしたが、それでも直径約20メートルの円形の加速器（写真）や、10メートルに及ぶ照射装置など、通常の医療装置と比べるととても巨大な装置です。使用開始から10年以上が経過しているため、様々な構成機器が老朽化により更新が必要となってきています。現在の性能を維持しつつ機器を少しずつ更新していますが、将来的には部分的な修理や更新では根本的に対応不可能となることが見込まれており、その時には全面的なリニューアルが必要になります。これをどのように実行していくかは、本学の重要な課題になります。

医療機器は常に進歩しています。将来やってくる装置のリニューアルでは、最新の治療技術を取り入れたいと考えています。そのために、我々も研究・開発に取り組んでいます。重粒子線がどこにどれだけ照射されるのかより正確に測定する技術、日々変化する患者さんの体内状況を把握しそれに対応して照射する技術、これまで治療対象を拡大して新たながん・非がん疾患に対する照射技術、重粒子線などの放射線のがん応答や薬剤との併用効果など、大学として基礎から実用に近い部分まで広範囲にわたって研究を行っています。

このような取り組みに対して、これまで群馬大学基金の一部を使わせて頂きました。今後の重粒子線治療の更なる普及や発展のために、皆様の益々のご支援をよろしくお願いいたします。



図：重粒子線治療患者数の年度別推移



写真：重粒子線を加速するシンクロトロン加速器



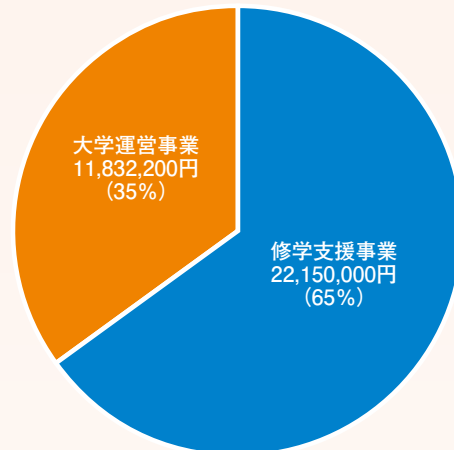
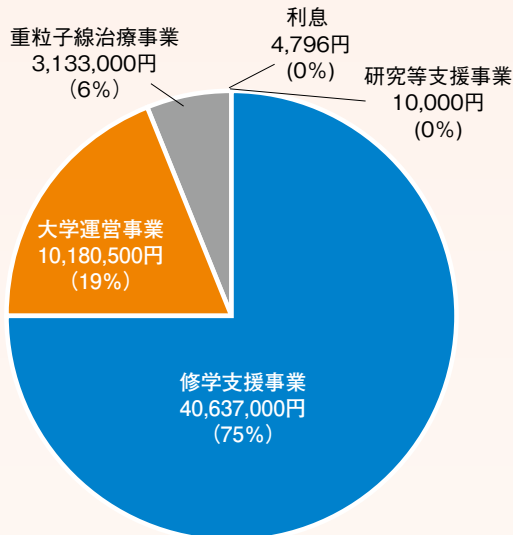
# 収支報告

2020年度は、総額約5,400万円のご寄附を頂戴しました。皆様からのご支援に、心より感謝申し上げます。2020年度の寄附額及び支出額をご報告します。

## 収支状況

収入 合計 53,965,296円

支出 合計 33,982,200円

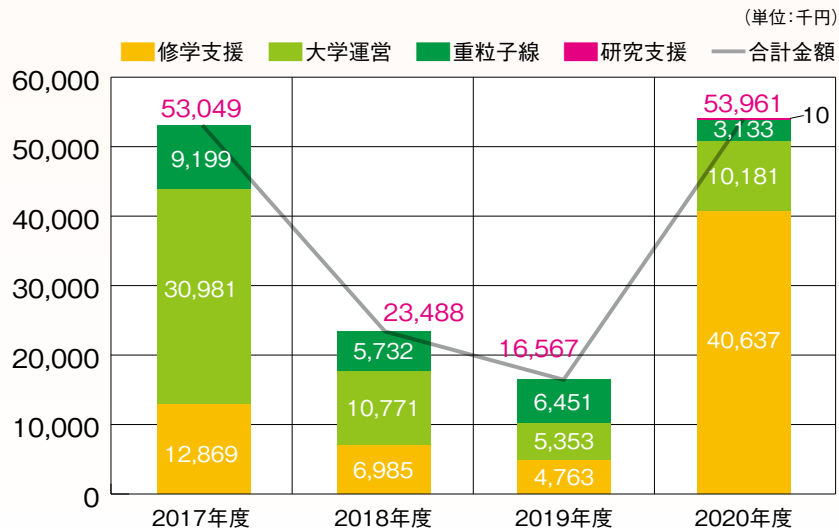


※新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援事業は、修学支援事業及び大学運営事業それぞれに含まれます。  
 ※2020年度の重粒子線治療事業及び研究等支援事業の実施はありません。

## 属性ごとの寄附金額

属性	件数	寄附金額 (円)
同窓生・同窓生の家族	474	26,745,000
在学生・在学生の家族	37	691,000
教職員・退職者	30	2,115,500
法人	48	21,740,000
その他	13	2,669,000
総計	602	53,960,500

## 年度別寄附額の推移



## 2020 年度群馬大学基金収入支出決算書

(単位：円)

事 項	積算内訳	計画額	決算額
<b>1. 収入額</b>		394,782,700	448,747,996
学生の修学支援に資する事業		24,296,176	64,933,176
2019 年度からの繰越額		24,296,176	24,296,176
2020 年度受入済額			40,637,000
大学運営全般に係る事項		50,235,527	60,416,027
2019 年度からの繰越額		50,235,527	50,235,527
2020 年度受入済額			10,180,500
重粒子線治療の普及・発展に資する事業		320,250,997	323,383,997
2019 年度からの繰越額		320,250,997	320,250,997
2020 年度受入済額			3,133,000
学生等への研究等支援に資する事業		0	10,000
2019 年度からの繰越額		0	0
2020 年度受入済額			10,000
利息等		0	4,796
<b>2. 支出額</b>		38,468,000	33,982,200
学生の修学支援に資する事業		14,900,000	22,150,000
○緊急学生支援奨学金給付 「新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援事業」	50,000 円 × 395 人 ※基金以外からも 548 人分給付	10,000,000	19,750,000
○奨学金の給付 「群馬大学基金における経済的困窮学生に対する奨学金給付事業」	大学院生 12 人（前期 6 人、後期 6 人） × 200,000 円	2,400,000	2,400,000
○学生の海外留学派遣 「留学（派遣）経費補助事業」	※新型コロナウイルス感染症拡大のため未実施	2,500,000	0
大学運営全般に係る事項		23,568,000	11,832,200
○グローバルチャレンジプログラム	※新型コロナウイルス感染症拡大のため延期 (学生の海外留学派遣 5 件予定⇒実施 0 件)	2,500,000	0
○学生のオンライン授業受講環境整備 「新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援事業」	15,000 円 × 766 人	15,000,000	11,490,000
○新入生に対するオンラインサポート 「新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援事業」	2 年生以上の学部学生サポーター 21 人に謝金支給	5,000,000	216,200
○国費外国人留学生受入支援 「新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援事業」	留学生の滞在諸費用補助 (1 日) 1,500 円 × 17 日 × 4 人 (1 日) 1,500 円 × 16 日 × 1 人	168,000	126,000
○基金事務費（通信費等）	※基金財源の安定化のため広報経費で支出	900,000	0
重粒子線治療の普及・発展に資する事業		0	0
※ 2020 年度の事業計画なし		0	0
学生等への研究等支援に資する事業		0	0
※ 2020 年度の事業計画なし		0	0
<b>3. 翌期へ繰越額</b>		356,314,700	414,765,796
学生の修学支援に資する事業		9,396,176	42,783,176
大学運営全般に係る事項	(利息含む)	26,667,527	48,588,623
重粒子線治療の普及・発展に資する事業		320,250,997	323,383,997
学生等への研究等支援に資する事業		0	10,000

## 2020年度寄附者のご芳名

ご寄附いただきました皆様に深い感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。  
 ※2020年4月1日～2021年3月31日の期間にご寄附のお申込みをいただいた方を掲載しております。  
 ※お名前前の掲載を許可いただいた方のみ、掲載させていただきます。

### 個人寄附者ご芳名

(五十音順・敬称略)

相川 英三	井上 齐	岡田 悠綺	倉林 和代	佐藤三木岩	角南 博
相川 一好	今井 信一	岡野 弘文	栗田 仁	里見 英雄	角谷由美子
相川 崇	岩崎 明美	岡本 亘平	黒川 公平	佐鳥 博子	住山 民雄
相田由美子	岩崎 孜郎	小河 純吉	黒崎 和夫	猿木 和久	関 将盛
青木 忠	岩崎 隆	小川 哲夫	桑原 澄男	澤田 芳信	関口 英雄
青木 幹雄	岩田 拡	小倉加奈子	桑原 英真	塩田 利彦	瀬下 敏男
青木 隆哉	岩田有里波	小曾根 賢	小池 尚道	志賀 達哉	善林 茂
青柳 護	岩本 哲雄	鬼形 榮一	小泉 仁一	篠原 茂雄	添田 慎介
朝倉 正博	植竹 裕	小野寺 周	古稻 昌之	渋谷 吉雄	添田 勉
新 典夫	牛島 義雄	小淵 博夫	小久保秀夫	島田 道夫	高瀬 健二
渥美 直美	内田 秀紀	梶原 護	小暮 公孝	島田 祥博	高橋 治
阿部 桂三	馬坂 達男	片倉誠之助	木暮 尚	清水 和夫	高橋 敬子
新井 唯	梅島 昌	片庭 博	小暮 忠	清水 敬親	高橋 俊江
新井 康夫	浦岡 俊夫	加藤 恒男	小暮 正久	清水 千尋	高橋 弘武
新井 豊	江島 吉以	金子 悦夫	木暮 憲道	清水 誠	高橋 満弘
飯島 久香	江部 和義	金子 英樹	小島英一郎	清水 正巳	高橋 宗彦
飯田 徳雄	江森 勇	狩野 明芳	児玉 智郎	志村喜三郎	滝澤 雅雄
飯塚 誠司	大枝 涼平	神尾 進之	後藤 文夫	下境 一浩	田口 満
飯塚 登志	大川 英夫	神尾 学	夏子 隆	下山 宏一	竹内 定
飯野 佑一	大河原秀康	神山 俊雄	小林 弘一	周東 武	竹内 宏
池田 春寿	大里 忠弘	亀井 登	小林 敏典	東海林久紀	田中 誠治
石井 角保	大嶋 清宏	鹿山 公	小林 英男	白石 壮志	田中 卓
石井 敏枝	大城 道子	川上 憲一	小見 隆男	白倉 賢二	田中 恒夫
石井真由美	大岡 吉雄	川口 知宏	小山美智子	白倉 卓夫	七夕 嵩真
石川 勝也	大関 淑茂	川崎 幸雄	近藤 一雄	白澤 章茂	谷口 淳
石原 公雄	太田 正史	川田 修司	近藤 匡	白澤 貴夫	田村 武
石原 詔二	大田和久雄	菊池 彰隆	齊藤 勝男	沈 イカ	長 京子
石本 香織	大津 義晃	岸 功	齊藤 慎一	菅野 実	立木 武志
磯 文夫	大司 俊郎	北形 幸信	齋藤 浩一	杉下 久夫	土屋 邦夫
井田 史郎	大西 章夫	北村 裕行	境野 俊男	鈴木 庄亮	手塚 誠
井田 延夫	大野 孝子	木村憲太郎	坂巻 文雄	鈴木 照子	寺尾 昭宏
一瀬 正信	大野 順弘	木村 博志	坂本 功	鈴木 秀雄	寺尾 直子
出雲 涉	大堀 弘子	清塚 昇	坂本 定則	鈴木 幸江	寺本 義憲
伊藤 和男	岡崎 久恒	日下 実明	佐々木 靖	須田 堅一	樋田 芳明
伊藤 孝男	岡田 慶一	窪 正一	笹澤 佳子	須田 初枝	遠山 淳一
伊藤 晃子	岡田 文夫	久保 義弘	佐藤佐知子	須田 健太	富岡 邦昭
伊藤 正男	岡田 文雄	窪田 健二	佐藤 大仁	須田 敏保	豊原 信治
稲葉 朋子	岡田やす子	倉島 忠美	佐藤 豊作	須永幸三郎	中井 五郎



長井 庸二	根橋 康文	蛭川 正敏	本郷 和哉	溝江 祐介	吉井 博幸
永井 利恵	野澤 淳一	廣田 泰士	本間 誉富	宮崎 正男	吉田 昭子
中岡 実	萩原 信一	笛木 孔二	牧田 靖彦	宮田 一秀	吉田 勝
中川 良基	萩原 裕子	深津 章	間島 竹彦	宮村 賢一	吉田 豊
中里 道明	橋永 秀樹	福岡 幹子	増田 貞男	室橋 克	吉野 博文
中里 洋一	橋本 豊三	福地 正之	増田 萌	本木 勝美	吉平 弘一
中沢 康夫	橋本 佑輔	福地 稔	町田 忠男	本橋 豊	吉松 栄彦
中繁 正浩	長谷 輝夫	藤井 晶子	松井 清	森 昌朋	淀縄 聡
永島 和典	長谷川伸一	藤生 俊夫	松井 聡幸	森田 邦仁	四方田尚美
中島佳代子	馬場 伸弥	藤田 隆充	松尾 仁	八木 克彦	若林 伸彦
中野 敦子	林 仁薫	藤村 孝道	松崎佐一郎	矢島 正	和田 信彦
中林 公正	林 正己	古谷 信雄	松下 近	柳沢 武二	和田 春雄
中村 圭子	原 克己	古屋 信和	松本 クリスターナ裕子	柳田 浩義	渡邊 秀臣
中村 誠	原 信夫	何 暁東	松本 伸	八巻ちひろ	渡邊 隆作
中村 幸夫	針ヶ谷 諭	星野 雄一	松本 満臣	山口 隆	綿貫 政司
奈良 孝之	彦部 篤夫	堀田 純子	間渕由紀夫	山口 幸雄	
成瀬 豊	日永 正彦	堀口 真寿	丸山 悠司	山越 栄一	匿名希望の
名和 正義	日野 幸美	堀越 俊六	三浦 清志	山崎 繁	寄附者様
縄田 瑞木	平塚 浩士	堀越 政彦	三浦 俊昭	山本 進	203名様
西川 祥子	平山 貴司	堀米弥太郎	三浦 雄二	熊 軼	
西島 和孝	平山 嘉繁	堀沢 英子	三隅 修三	横村 淳	

## 法人・団体寄附者ご芳名

(五十音順・敬称略)

株式会社アイ・ディー・エー	株式会社シィオ
足利ガス株式会社	システムセイコー株式会社
池下工業株式会社	上武印刷株式会社
植木プラスチック株式会社	株式会社総合PR
鶴川興業株式会社	田中内科クリニック
エムラボ株式会社	塚本建設株式会社
株式会社円設	一般財団法人同愛会
有限会社柏屋	東京パーツ工業株式会社
菊地歯車株式会社	株式会社登利平
株式会社協正金型製作所	医療法人長岡産婦人科医院
株式会社キンケン	株式会社日本キャンパック
株式会社キンセイ産業	株式会社野村建設工業
株式会社群電	株式会社原田
群馬県警察学校初任科第93期生会	星野総合商事株式会社
一般社団法人群馬大学工業会	前橋南ロータリークラブ
一般社団法人群馬大学工業会伊勢崎支部サンデン分会	丸三飲料株式会社
一般社団法人群馬大学工業会太田支部	ミナミグリーンテニスクラブ有限会社
群馬トヨベツ株式会社	ミヤズファミリー株式会社
小池化学株式会社 赤城工場	株式会社ユタカ製作所
株式会社小島鐵工所	株式会社ヨーユーラボ
医療法人佐藤小児科医院	株式会社ヨシカワ
株式会社サンコー・インダストリアル・オートメーション	匿名希望の法人・団体様 4 法人・団体様



**お問合せ先**

国立大学法人群馬大学 総務部総務課広報係(基金事務室)  
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地  
T E L 027-220-7018  
F A X 027-220-7012  
Email [kikin@jimugunma-u.ac.jp](mailto:kikin@jimugunma-u.ac.jp)  
URL <https://kikin.gunma-u.ac.jp/>

